

## アドバイスしない相談員

仏教テレフォン相談という電話相談窓口で相談員という偉そうな肩書でボランティアをしています。相談業務に携わりながらいつも感じる疑問があります。それは様々な悩みを抱え解決がつかない私に悩みを相談して、相談者の悩みは解決するのだろうかというものです。ところが不思議なことに、見ず知らずの特にアドバイスをするわけでもない私に心を開いて悩みを話し、電話の最後に感謝されることがあるのです。「自分の話をただ聞いてほしい」という欲求はみんなが持っている、解決がつかなくても、ただ聞いてくれる人がいればそれは満たされる。人間って不思議です。

東京都江東区 光明寺

住職 小林 尚樹 先生



## 親鸞聖人報恩講ご法話

講題・愚者になりて往生す

二〇二二年十一月七日(日)

報恩講は宗祖・親鸞聖人のご命日のご法要です。親鸞聖人の九〇年のご生涯から私たちが阿弥陀の本願を聞かせていただく大事なご縁として、浄土真宗で最も大切に勤められ

報恩講は宗祖・親鸞聖人のご命日のご法要です。このたびは感染対策として、本堂の人数を制限し、YouTubeでの配信も併用いたしました。ここでは、当日のご法話のダイジェスト版を掲載いたします。

報恩講は真宗門徒にとって最も大切な仏事です。仏事とは亡くなった方をご縁にして、今を生きる私たちひとりひとりが教えに出会う仏さまのお仕事を言います。親鸞聖人をご縁にして教えに出会うこれが報恩講です。

### ◆講題・愚者になりて往生す

親鸞聖人はお手紙のなかで今日の講題であるこの言葉をお書きになりました。これは師・法然上人がおっしゃっていた言葉で、念仏を宗として生きる人々は、愚者になりて往生すると常々おっしゃっていたそうです。「往生」とは命を終えて浄土に生まれて幸せ

になるという意味ではありません。「往生」とは生きて往く。つまり私たちは浄土という方向に向かって生きて往くことを言います。

亡くなってから幸せになるのであれば、生きてこの世が苦しいことにどのような意味があるのか？やがて老いて病気になる迷いのいのちをどう生きて往くのか？そこに仏の教えの大切な意味があると思うのです。

ですから「愚者になりて往生す」とは「愚者になって生きて往く」ということで、「愚者になってあの世に往く」という意味ではありません。「愚者」とは煩惱を抱え、罪を背

負いながら、この世を懸命に生きて往く者のこと。親鸞聖人の時代であれば、狩猟をして他の命を殺めるなど、仏教で言う悪業を犯して生きざるを得ない人々などを言いました。そのように生きる者は「自分は救われるのだろうか？」といつも不安を抱えて生きることになります。不安をもって生きる者こそ、教えを聞く耳があり、身をもって仏の教えを聞く準備ができてい。その人を愚者と呼ぶのであって、単なる愚か者という意味ではありません。親鸞聖人はこのように煩惱を抱え罪を背負い不安を感じながら、それでも念仏して生きて往く生き方を法然上人から受け取ったのです。

『歎異抄』において親鸞聖人はこのようにおっしゃっています。「私・親鸞においては『ただ念仏して阿弥陀仏にたすけていただく他には何もない』という、よきひと法然上人の仰せを信ずるよりありません。」法然上人の生き方を受け取り法然上人のように生きる、これが親鸞聖人のご信心だと思います。私・親鸞は法然上人に出遇い自分の生き方が定まったということであろうと思います。

◆「ただ念仏して」とは、どのようなこと？

念仏とは「南無阿弥陀仏」と阿弥陀仏のお名前を呼ぶことです。「ただ念仏して」と教えられていますが、「南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏」と称えているだけではなく、念仏が自分にとってどのような意味があるのかを知りたいと思うのが私たちなのです。

この如来は、光明なり。光明は智慧なり。智慧はひかりのかたちなり。

『一念多念文意』

親鸞聖人は「如来（阿弥陀仏）は光であり、智慧である。智慧は光として現れる」と教えています。ところが私たちの目は光を直接見ることができません。つまり私たちは阿弥陀仏を直接見ることはできないのです。

ところが光を見ることができなくとも、光の存在を知る方法はあるのです。それが反射です。夜空の月を見てみると太陽光が当たっている部分だけ明るく見えますね。これは太陽光を直接見るわけではないけれど、月からの反射を見て太陽光の存在を認識するのです。照らされたもの（今の喩えで言えば月）の上に、そのはたらきを現すのが光の特徴です。今の引用で「阿弥陀仏は光であり、智慧のかたちである」

とありましたが、智慧の光によって照らされるのは実は私たちなのです。その光（阿弥陀仏）はどこにあるかといえば照らされている私の上にあるわけです。光は照らされたものの上に姿・かたちを現すわけです。だから現れ方は人それぞれに違います。どのように現れてくるかといえば、阿弥陀仏によって照らされた人の「そのまま」が見えてくるのです。そしてそれぞれに生きてきた経験（業）が違いますから、同じようには光らないのです。つまり阿弥陀仏の智慧の光によって「この私がいったい何者であるのか」が知らされる、思ってもみなかった自分が知らされるのです。それが阿弥陀仏のはたらきです。仏のはたらきに出遇ってみたら「そのままの私」が知らされるのです。

仏の教えから知らされるわが身。そのわが身に向き合っていく生き方。これが「愚者になりて往生す（愚者になって生きて往く生き方）」だと思えます。

◆悩みや苦しみは消えるのでしょうか？

最後に相田みつをさんの詩を紹介して終わりたいと思います。

つまづいたっていいじゃないか

人間なもの

くるしいことだってあるさ

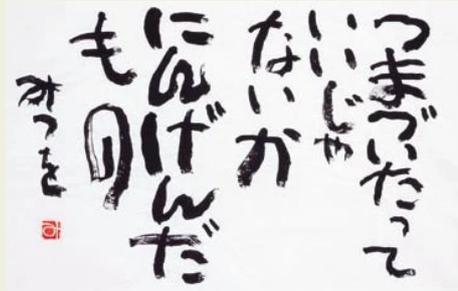
人間なもの

まよふときだってあるさ

凡夫ぼんぷなもの

あやまちだってあるよ

おれだもの



ぐちをこぼして 往ゆくんだね

なみだをながして 往ゆくんだね

だれにも気がねは いらぬから

えんりよしなくていんですよ

なみだをながして 往ゆくが いい

ぐちをこぼしたって

いいがな

弱音を吐いたって

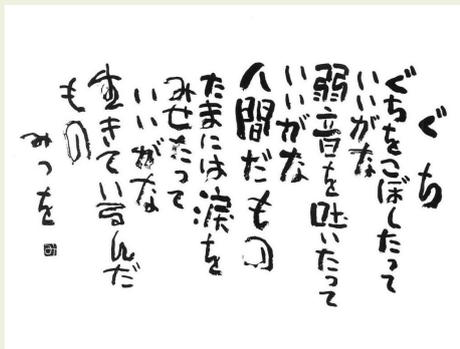
いいがな

人間なもの

たまには涙をみせたって

いいがな

生きているんだもの



生きるうえで、迷い・苦しみ・悲しみは消え  
ませんね。みなさんは泣くことなんてなければ  
いい、迷うことなんてまったくない方がいいと

### YouTube 真英寺法話チャンネル

当日の小林先生のご法話をお聞きになりたい方は  
下記QRコードからスマホ等でご覧いただけます。



<https://youtu.be/dzGHe6bS064>



真英寺 報恩講

検索

宗祖聖人  
親鸞恩講  
2021

11月7日(日) 14:00~15:30

テーマ：愚者になりて往生す

お話し：小林尚樹 師  
光明寺住職  
(東京都江東区)

思うでしょうか？私はそのように思いません。  
迷いや苦しみのなかにしかない「生きる実感」  
というものがあるのではないかと思います。  
相田みつをさんの詩から受け取ること、親鸞  
聖人から受け取ること、あるいは親鸞聖人が法  
然上人から受け取ったことを見ていくとこの世  
を生きて往いくのに力強く生きて先輩たちがいた  
など心強く思います。仏の教えを生きた先輩た  
ちがたくさんいらっしゃる。その声を聞きなが  
ら私自身も自分の人生を生きて往いく。今日は報  
恩講であります。親鸞聖人のご生涯をご縁に  
して私にとって大切な仏の教えを聞かせていた  
だく仏事がこの報恩講だと思っております。

(文責：真英寺)

# お寺の掲示板

「やらねばならぬ」と思うならやめなさい

あなた自身が

「やらずにおれない」と思うならやりなさい

安田 理深

今回もまた謎の多い言葉です。この世の中の仕事のほとんどは「やらねばならぬ」ことだと思えますが、ここではそれを「やめなさい」と言い、一方「やらずにおれない」ことを「やりなさい」と勧めているのです。この言葉から私を感じることは「やらねばならぬ」ことはすぐ思いつくのに「やらずにおれない」ことがまったく思い当たらないのです。「あれもやらねば、これもやらねば」と毎日毎日ただ自分を忙しくさせるものばかりに目を奪われて「本当に必要なことは何か」を一度立ち止まって考えなさいと呼びかける言葉なのでしょう。みなさんは「やらずにおれない」と思う瞬間はありますか？



## 2023年 年間行事予定表

(新型コロナウイルス感染拡大の状況により日時は変動する可能性があります)

1月2日(月) 14時	修正会 <small>しゆしようえ</small>
3月19日(日) 14時	春彼岸会法要 <small>ひがんえ</small>
7月4日(日) 14時	お盆のつどい <small>ひがんえ</small>
9月24日(日) 14時	秋彼岸会法要 <small>ひがんえ</small>
11月7日(火) 14時	報恩講 <small>ほうおんこう</small>

## 令和5年(2023年)年回表

50回忌	昭和49年(1974)
47回忌	昭和52年(1977)
43回忌	昭和56年(1981)
37回忌	昭和62年(1987)
33回忌	平成3年(1991)
27回忌	平成9年(1997)
23回忌	平成13年(2001)
17回忌	平成19年(2007)
13回忌	平成23年(2011)
7回忌	平成29年(2017)
3回忌	令和3年(2021)
1周忌	令和4年(2022)

## ご門徒様控室(洋間)

### 内装工事のお知らせ

昭和五十三年に現在の本堂が再建されて以来四十以上にわたり、控室としてご利用いただいていた洋間。内装はすっかり古くなりお部屋の中も薄暗いので、このたびリフォームすることになりました。

工事は二〇二二年十一月上旬〜十二月中旬まで。年内には完了している予定です。十二月中旬までは、ご法要の際のお斎(お食事)のご利用ができません。工事期間中は何かとご不便をお掛けするかと存じますが、ご理解・ご協力のほどお願い申し上げます。



写真は慣れ親しんだこれまでの控室

眞英寺寺報「慈現」第六号

発行 眞英寺(眞宗大谷派 京都東本願寺)

東京都新宿区若葉二丁目一番三

TEL 03-3351-5955

E-mail m-miura@senei.jp

URL <https://www.sinei.jp/>

